

健康社会研究センター ニューズレター 第39号

2015.9.18 発行

◆ 目次 ◆

- 1 最新のお知らせ
- 2 主な研究成果発表
- 3 研究費獲得のお知らせ
- 4 ワークショップのご報告
- 5 学会・シンポジウム・研究会等のお知らせ

健康社会研究センターはJAGES(日本老年学的評価研究)の事務局の1つとして、下記のような活動に取り組んできました。

1. 最新のお知らせ

○自治体共同研究会を開催しました

6月10日東京大学本郷キャンパス、6月12日日本福祉大学名古屋キャンパスにおきまして、JAGES調査の結果を用いて、自治体との共同研究会を行いました。

今回は、2日間のいずれかに27自治体から計50名を超える自治体担当者の方々にご出席いただきました。研究者も20名強参加し、参加市町村の課題や見える化システムを使った課題把握の方法や一般介護予防事業の評価、政策動向などの情報共有を行い、JAGESのデータを活用してどのようなことができるか、活発な議論が行われました。

また、神戸市や半田市、御船町の担当者から地域診断ツールの活用例などのご報告いただきました。

参加者の方からは、「見える化ツールは、多職種・住民のコミュニケーションツールとして活用させてもらっている」「サロンの評価をするには、どういうデータを作ればよいか分った」など、多くの感想やご意見を頂きました。

今後も見える化システムの改善や介護予防事業の評価等に取り組み、自治体の皆様とともに今後の介護予防政策のエビデンスを構築していきたいと考えております。ご参加いただきました自治体の皆様、誠にありがとうございました。2016年度調査にも御協力いただけますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。



○カワチ先生をお招きし、宮城県岩沼市、仙台市で講演会を行いました

2015年6月4日(木)、岩沼市にて、主に岩沼市の職員向けに、JAGESプロジェクトの紹介を近藤克則(千葉大)から、JAGESプロジェクトの分析結果を相田潤(東北大)から、そして「ソーシャルキャピタルと健康」について、イチロー・カワチ先生(ハーバード大学)からご講演をいただきました。皆様大変お忙しい中、50名以上の職員の方々のご参加をいただきました。誠にありがとうございました。

2015年6月5日(金)には、第51回宮城県宮城県公衆衛生学会学術総会にて、「災害とソーシャル・キャピタルと健康-復興に向けて」と題して、イチロー・カワチ先生からご講演をいただきました。100名近くの方にご参加をいただき、現場の皆様とカワチ先生、近藤(克)をはじめ、活発な議論が行われました。

○近藤克則が「日本健康会議」の実行委員になりました

「日本健康会議」は、先進的な予防・健康づくりを全国に広げるための経済団体・保険者・自治体・医療関係団体等のリーダーによる活動体です。7月10日にキックオフ会議が開催されました。

○JAGES 内 健診データWG が始動しました

太田先生にご尽力いただいた「健診データ付き 2010 横断データ(v0)」が配布可能になり、健診 WG が発足しました。7月14日に初めてのミーティングが開催されました。

○JAGES 内 運動疫学 WG が発足しました

2016年調査票作成に向け、運動疫学WGからどのような提案をおこなうかの議論が進められる予定です。運動、スポーツ、身体活動、身体機能、転倒などなどに関して追加したい項目がある方、そのような項目をメインで分析したいという方は、ぜひご登録頂ければと思います。

2. 主な研究成果発表

<論文等>

1. Tani Y, Kondo N, Takagi D, Saito M, Hikichi H, Ojima T, et al. : Combined effects of eating alone and living alone on unhealthy dietary behaviors, obesity and underweight in older Japanese adults: results of the JAGES. *Appetite*. 2015.(Online first)
2. Nakade M, Takagi D, Suzuki K, Aida J, Ojima T, Kondo K, et al. : Influence of socioeconomic status on the association between body mass index and cause-specific mortality among older Japanese adults: The AGES Cohort Study. *Prev Med*. 2015; 77:112-8.
3. Kondo K. : Evaluation of Effectiveness, Quality and Inequalities in Health, Medical and Long-Term Care – Achievements and Challenges. *Public Policy Review* (in press)
4. 齋藤 民、近藤 克則、村田 千代栄、鄭 丞媛、鈴木 佳代、近藤 尚己、JAGES グループ: 高齢者の外出行動と社会的・余暇的活動における性差と地域差: JAGES プロジェクトから 日本公衆衛生雑誌(印刷中)
5. 田代敦志、菖蒲川由郷、齋藤玲子、近藤克則: 肺炎球菌ワクチン接種率の地域差と背景要因 厚生 の 指 標, 2016 年 1 月号(印刷中)
6. 谷友香子: 日本人高齢者の孤食と食行動および Body Mass Index との関連: JAGES の分析結果. 厚生 の 指 標, 2015 年 11 月号(印刷中)
7. 近藤克則: 保健・医療・介護における効果・質・格差の評価—到達点と課題—. 財務省財務総合政策研究所「フィンランシャル・レビュー, 平成 27 年第3号(通巻第 123 号):133-157, 2015. 6
8. 尾島俊之: 健康日本 21(第 2 次)の推進による健康寿命の延伸. 「特集 健康日本 21(第 2 次)の初期評価」, 保健師ジャーナル 71(6):458-461, 2015
9. 近藤克則: 健康格差対策のための 7 原則. 「特集 健康日本 21(第 2 次)の初期評価」, 保健師ジャーナル 71(6):462-469, 2015
10. 近藤尚己: 健康格差の評価・測定とその活用—熊本県御船町での取り組み事例より. 「特集 健康日本 21(第 2 次)の初期評価」, 保健師ジャーナル 71(6):470-474, 2015
11. 稲葉陽二: ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)で地域の特性を探る. 「特集 健康日本 21(第 2 次)の初期評価」, 保健師ジャーナル 71(6):475-479, 2015
12. 齊藤雅茂, 近藤克則, 尾島俊之, 平井寛: 健康指標との関連からみた高齢者の社会的孤立基準の検討; 10 年間の AGES コホートより. 日本公衆衛生雑誌. 62(3):95-105, 2015
13. 齊藤雅茂, 近藤克則, 近藤尚己, 尾島俊之, 鈴木佳代, 阿部彩: 高齢者における相対的剥奪の割合と諸特性~JAGES プロジェクト横断調査より~. 季刊社会保障研究 50(3):309-323, 2014

<学会発表>

European Congress of Epidemiology , Maastricht, Netherlands, June 25–27, 2015

1. Shobugawa Y. : Association between social participation and influenza infection: a cross sectional study in Japanese older people (抄録集:P310)
2. Fujiwara T, Tani Y, Ashida T, Kondo N, Kondo K. : Association of childhood abuse history and dementia: Results from JAGES study (抄録集:p150)

ESRC Multi-disciplinary Health & Biomarkers Conference, ISER University of Essex, June 24–25, 2015

3. Cable N. : The role of sleeping disturbance for depressive disorders among older adults living in England and Japan (Oral presentation)

The Society of Epidemiologic Research 48th Annual Meeting, Denver, USA, June 16–19, 2015

4. Naoki Kondo, Yoshiaki Ishikawa : Facilitating health checkups for socioeconomically vulnerable individuals by promoting affective decision-making: A quasi-experimental study at Pachinko (Japanese pinball) parlors. (L03P1 Late Breaker)
5. Koichiro Shiba, Naoki Kondo : Social roles in households or local communities and depression among older Japanese:the ages longitudinal study. (419-S/P)
6. Yuri Sasaki, Yasuhiro Miyaguni, Yukako Tani, Yuiko Nagamine, Hiroyuki Hikichi, Tami Saito, Naoki Kondo, Kazuhiro Kakimoto, Katsunori Kondo, and the JAGES group. : The geriatric depression scale (GDS-15) and interpersonal relationship with surroundings among older adults at the community level in Japan –Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)– (931-S/P P3 Mental Health)
7. Yukako Tani, Yuri Sasaki, Maho Haseda, Katsunori Kondo, Naoki Kondo, JAGES group. : Eating alone and depression by cohabitation status among older women and men: The JAGES longitudinal survey
8. Yusuke Matsuyama, JAGES group. : Maltreatment in childhood was associated with number of remaining teeth among older Japanese; A life-course study of the JAGES project.

27th REVES (Reseau esperance de vie en sante), Singapore, June 2–4, 2015

9. Ojima T, Myojin T, Tani Y, Sasaki Y, Okada E, Nakamura M, Saito M, Aida J, Kondo N, Kondo K, Hashimoto S, and JAGES group. : Factors determining activity limitation in Japan: JAGES project panel analyses. (Oral presentation)

The 7th Annual Meeting of The International Society for Social Capital Research (ISSC) Seoul and Jeju, Korea, June 1–2, 2015

10. Kondo K. : Introduction of Iwanuma Study. (Oral Presentation)
11. Aida J. : Determinants of mortality during and after an earthquake and tsunami. (Oral Presentation)
12. Tsuji T. : How social capital before the earthquake has affected participation in an exercise community after the earthquake.(Oral Presentation)
13. Takagi D. : Development of areal diagnostic tool for risk of long-term care need: The JAGES cohort study. (Oral Presentation)
14. Fujiwara T. : Social capital, physical environment, and biomarkers: Results from JAGES study. (Oral Presentation)
15. Naoki Kondo. : Individual social capital of health professionals and performance of preventive care: Introduction of two new studies in Japan and Papua New Guinea. (Oral Presentation)
16. Shirai K. : Is Social Capital associated with reduce risks of onset of dementia among community dwelling older Japanese:the JAGES Study project. (Oral Presentation)
17. Shirai K.. : Sense of coherence(SOC), social capital and its association with health a case of JAGES Iwanuma Study: Exploratory analysis on resilience factor for protecting mortality after disaster experience. (Oral Presentation)

World Health Summit Regional Meeting Asia KYOTO 2015, Kyoto, Japan, April 13–14, 2015

18. Kondo K. : Social participation and contribution of older people in Japan.(Oral Presentation)
19. Aida J. : Social capital and disaster resilience: A natural experiment in Iwanuma. (Oral Presentation)
20. Hikichi H. : Social participation and health aging: A natural experiment in Taketoyo. (Oral Presentation)
21. Shirai K. : Social connectedness, Social Capital and Health in Okinawa. (Oral Presentation)

93rd General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Boston Mar. 11-15, 2015

22. Yusuke Matsuyama, JAGES group. : Economic Difficult and Tooth Loss after Catastrophic Disaster in Japan.

The 67th Annual Scientific Meeting, Gerontological Society of America, Washington.DC USA, Nov. 7, 2014

23. Saito-Kokusho T, Murata C, Aida J, Jeong S, and Kondo K. : Effects of Marriage on the Onset of Disability in Older Men and Women: A Seven-Year Follow-up

第51回 日本循環器病予防学会学術集会、大阪、2015年6月26-27日

24. 尾島俊之、小嶋雅代、坪谷透、糟谷昌志、岡田栄作、柴田陽介、中村美詠子、齊藤雅茂、近藤尚己、相田潤、近藤克則：
地域診断指標としての「飲酒をやめた」割合の有用性：JAGES プロジェクト。日本循環器病予防学会誌 50(2): 129, 2015

第57回 日本老年社会科学会、横浜・神奈川、2015年6月12-14日

25. 白井こころ・大平哲也・磯博康・林慧・近藤尚己・近藤克則・永井雅人・今井友里加・Ichiro Kawachi. : 高齢期における「笑い」と日常生活機能との関係：JAGES Project 2013. (Poster Presentation)
26. 村田千代栄、近藤克則、筒井秀代、原岡智子、斎藤民、相田潤：地域在住高齢者の治療中断に至る要因～医師・患者コミュニケーションの観点から
27. 斎藤 民、村田千代栄、鄭 丞媛、近藤克則：男女別にみた家族介護に従事する高齢者の介護状況と特徴：非介護者との比較から。老年社会科学 Vol.37(2) : 215, 2015
28. 齊藤雅茂、宮國康弘、斎藤民、近藤克則：見守られている独居者と見守られていない独居者の特性。老年社会科学 37(2) : 184, 2015

第52回 日本リハビリテーション医学会 学術集会、朱鷺メッセ、新潟県、2015年5月28-30日

29. 近藤克則：地域在住高齢者の転倒歴に関連する要因：JAGES プロジェクト。抄録集：S434, 3-P5-8

第64回 日本口腔衛生学会・総会、つくば、2015年5月27日-29日

30. 松山祐輔：15歳のころの生活程度が低かった高齢者は歯が少ない；JAGES project のライフコース分析
31. 山本龍生、淵田慎也、相田 潤、近藤克則、平田幸夫：介護予防事業（口腔機能向上）への参加に関連する要因：JAGES プロジェクト。口腔衛生学会雑誌 65(2) : 197, 2015

<シンポジウム>

第30回 日本国際保健医療学会東日本地方会、佐久総合病院、長野県、2015年6月20日

1. 近藤克則：アジアへの示唆—超高齢化先進国日本における社会疫学・予防医学研究の立場から「加速するアジアの高齢化にどう立ち向かうか」、抄録集 p30

第20回 日本老年看護学会 学術集会、パシフィコ横浜、神奈川、2015年6月12-14日

2. 近藤克則：教育講演 高齢者の保健・医学における「見える化」

第52回 日本リハビリテーション医学会 学術集会、朱鷺メッセ、新潟県、2015年5月28-30日

3. 近藤克則：日本リハビリテーション・データベース協議会(JARD)のデータベースで何ができるか？。リハビリ専門医企画「エビデンスとロールモデルから示されるリハ科専門医の存在意義」、抄録集：S167

<講演>

1. 近藤克則：地域医療とソーシャルキャピタル。佐久総合病院第11回グローバルカフェ，長野県，2015.7.2
2. 近藤克則：超高齢社会において高齢者の望む社会 等。東京大学日本の医療の光と影セミナー，東京大学駒場キャンパス，2015.6.25
3. 近藤克則：健康格差社会の現状とその是正には何が必要か。千葉県保険医協会第44回定期総会記念講演，千葉県保険医協会会議室，2015.6.14
4. 近藤克則：高齢者医療制度の動向。市町村職員中央研修所研修「高齢者福祉と介護保険」，市町村職員中央研修所，千葉県，2015.6.8
5. 近藤克則：健康格差に向き合う—保健活動に期待される役割。平成27年度千葉縣市町村保健活動連絡協議会特別講演会，千葉市総合保健医療センター，2015.5.12
6. 近藤克則：健康なまちづくりに向けて。健康長寿社会を実現する未来の健康都市コンセプト立案のためのステークホルダー・コミュニケーション会議，竹中工務店東京本店，2015.4.16

<書籍>

1. 近藤克則: 保健・医療・介護ビッグデータの構築・活用の可能性と課題. 財務省財務総合政策研究所編著: 持続可能な介護に関する研究会報告書. 財務省財務総合政策研究所, (印刷中)
2. 川上憲人, 橋本英樹, 近藤尚己[編]: 社会と健康 健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ. 東京大学出版会, 2015.4

<メディア掲載・その他>

1. 尾島俊之・藤原佳典・本塚真弓: 座談会 連載の振り返りから保健活動へのヒントを探る. 保健師ジャーナル 71(6):512-518, 2015
2. Ito K, Aida J, Yamamoto T, Otsuka R, Nakade M, Suzuki K, Kondo K, and Osaka K: Individual- and community-level social gradients of edentulousness. BMC Oral Health; 2015:34 (doi:10.1186/s12903-015-0020-z, 2015.03.11 published online first).
の内容が下記メディアで紹介されました。
 - ・ケアマネジメントオンライン http://www.caremanagement.jp/?action_news_detail=true&storyid=12983&view=all
 - ・日経 Gooday http://gooday.nikkei.co.jp/atcl/report/14/091100031/051300038/?ST=m_bodycare
 - ・「介護保険情報」6月号に掲載されました: 「100万円の『格差』で無歯顎リスク6割減」
 - ・「デンタリズム」に掲載されました: 「地域の平均所得が100万円増えると無歯顎になるリスクが約6割も減少」
3. 齊藤雅茂, 近藤克則, 尾島俊之, 平井寛: 健康指標との関連からみた高齢者の社会的孤立基準の検討; 10年間のAGESコホートより. 日本公衆衛生雑誌. 62(3):95-105, 2015
の内容が下記の新聞等に掲載されました。
 - ・日本経済新聞 2015年5月26日「孤独な高齢者 認知症リスク 交流少ないほど発症率上昇」
 - ・中日新聞 2015年5月15日「孤立は要介護リスク増大; 他人と交流週1回未満で1.4倍」
 - ・ケアマネジメント・オンライン 2015年4月28日「他者との交流「週1回未満」で要介護や認知症になりやすく—JAGESプロジェクト」 (http://www.caremanagement.jp/?action_news_detail=true&storyid=12984&view=all)
 - ・読売新聞 2015年4月22日「人付き合い週1回未満、要介護リスク1.4倍」
 - ・朝日新聞 2015年4月22日「他人と交流、「月1回未満」で死亡リスク 健康追跡調査」
4. Saito M, Kondo K, Kondo N, Abe A, Ojima T, et al. (2014) Relative Deprivation, Poverty, and Subjective Health: JAGES Cross-Sectional Study. PLoS ONE 9(10): e111169. doi:10.1371/journal.pone.0111169,
齊藤雅茂, 近藤克則, 近藤尚己, 尾島俊之, 鈴木佳代, 阿部彩: 高齢者における相対的剥奪の割合と諸特性~JAGESプロジェクト横断調査より~. 季刊社会保障研究 50(3):309-323, 2014
の内容が共同通信社より配信され、下記の新聞に掲載されました。
 - ・埼玉新聞(2015年4月15日) ・大分合同新聞(2015年4月18日)
 - ・日本海新聞(2015年4月23日) ・岩手日報(2015年4月24日)
 - ・中国新聞(2015年5月1日) ・高知新聞(2015年5月1日)
 - ・宮崎日日新聞(2015年5月1日) ・秋田さきがけ(2015年5月14日)
 - ・佐賀新聞(2015年5月19日) ・沖縄タイムズ(2015年6月10日)
5. コミュニティサロンに頻繁に参加する高齢者は要介護認定リスクが半減—JAGESプロジェクト
・ケアマネジメントオンライン
http://www.caremanagement.jp/index.php?action_news_detail=true&storyid=12997
6. AERA2015年5月25日増大号にて、「大特集 格差社会を乗り越える」が掲載され、JAGES研究結果を踏まえて近藤尚己らがコメントをしました。
7. 武豊プロジェクトの5年間縦断研究による介護予防効果を検証した Hikichi 論文が open access で誰でも読めるようになりました
article at: <http://jech.bmj.com/cgi/content/full/jech-2014-205345>
PDF:<http://jech.bmj.com/cgi/rapidpdf/jech-2014-205345?jkey=AARCfsbwOb3VCnr&keytype=ref>
サロンに参加すると(ボランティアを除く一般参加者に限定しても), 要介護認定を受ける確率が半減しました。
8. 近藤克則: 一般社団法人ヘルスケアイノベーションプロジェクト(HIP)学術委員会, 東京大学 山上会館, 2015.6.23

9. 近藤尚己:「知らぬうちの健康に」 機関誌 UP 511 巻. 2015 年 5 月号 東京大学出版会
10. 共同通信社配信:医療保険制度改革法成立「医療費膨張に危機感—解説:予防強化 効果は未知数」との解説記事の中で、近藤克則「低所得者に不利も」とコメントをしました。神戸新聞他2社に掲載されました(2015.5.27)

3. 研究費獲得のお知らせ

- ① 研究代表者:相田潤 平成27年度長寿科学研究者支援事業
課題名「急増する都市部の高齢者のフレイル予防・介護予防につながる社会環境・保健行動の研究」
- ② 研究代表者:竹田徳則 厚生労働科研2次公募採択
課題名「ポピュレーションアプローチによる認知症予防のための社会参加支援の地域介入研究」
- ③ 研究分担者:斎藤民 平成27年度長寿医療研究開発(旧課題番号:27指-1 変更後課題番号:27-22)
- ④ 研究代表者:岡田栄作 公益財団法人三菱財団 社会福祉事業・研究助成
課題名「ファシリテーションと地域診断を活用した介護予防政策支援プログラムの開発」
- ⑤ 佐々木由理:長寿科学振興財団 継続受給決定
- ⑥ 谷友香子:長寿科学振興財団リサーチレジデント継続採用 決定

4. ワークショップのご報告

第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術総会(6月13日)にて、「健康の社会的決定要因研究とプライマリ・ケアへの応用」と題して、社会疫学の臨床研究ワークショップを開催しました。近藤尚己(東京大学)、藤井博之先生(日本福祉大学)、小松裕和先生(佐久総合病院)、長谷田真帆(東京大学)、長嶺由衣子(千葉大学)がワークショップを開催し、50名以上のプライマリ・ケア医療従事者が参加し、「また開催してほしい」との声を多くいただきました。

今後も、プライマリ・ケア領域と社会疫学のコラボレーション企画の開催を行ってまいります。

5. 学会・シンポジウム・研究会等のお知らせ

今後の予定 ※変更になることがあります。

<JAGES 研究会>

9月26日(土) 東京大学本郷キャンパス

27日(日) 午前:「Watt先生をお迎えして日英研究」東京大学本郷キャンパス

午後:シンポジウム 東京大学本郷キャンパス

「健康の社会的決定要因と健康格差の縮小:研究と政策の観点から」

10月31日(土) 日本福祉大学名古屋キャンパス

ニューズレター第39号の発行にご協力いただきましてありがとうございました。

今後とも当センターへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

メーリングリストの配信の停止をご希望の方・ご意見・お問い合わせ・情報提供はこちら<p-tanaka@n-fukushi.ac.jp> (田中) >までお知らせください(ご連絡の際は*を@に変更して下さい)。

ニューズレターのバックナンバーはこちら<[バックナンバー](#)>

発行元:健康社会研究センター <http://cws.umin.jp/>

このメールは、国際シンポジウム「健康の社会的決定要因—社会疫学の可能性」(2009年3月14日開催)及び、「『健康の社会的決定要因』を巡る国際的動向」(2011年12月23日開催)、国際ワークショップ「社会疫学と老年学における国際共同研究の可能性」(2012年1月8日開催)にてメール登録をご希望いただいた方及びメーリングリストweb登録をいただいた方に配信しています。